

編 集 後 記

筆者はかねてから、編集後記とは、その号に掲載された論文につき紹介するのが本筋で、決して随想や随筆欄ではない、と思っている。原点に立ち帰ってみたい。

今回お届けする論文は4編である。てんかん治療における長時間ビデオ脳波モニタリング(LMT)の役割を論じた山本論文は、査読者の一員が脳波の専門家であったこともあり、多数の修正・加筆をお願いしたが、それらの意見を容れ、本誌向けの論文に仕上げて頂いた。久しぶりの原著論文としての価値がある。松本論文、一読して感ずるのは、未だに研究対象としての魅力を失わないリウマチ性疾患の複雑さである。類縁疾患を含めると多数の疾患群を擁する本症の中で、今回は、線維筋痛症について解説して頂いた。新しい分野の紹介である。吉田論文は、慢性腎臓病治療における治療薬の位置付けに関する解説である。本疾患の診断と治療に関し詳細かつ丁寧に論じて頂いた。最後の伊奈論文、癌治療の主流となりつつある化学療法を外来で行うために新しく造られた設備、管理体制の紹介である。オープンして1年余とあるが、治療成績、生じた問題点など、将来の投稿に期待したい。

ここで論文査読に関する編集委員会の役割について私見を記したい。編集委員会は意地悪な評者の集団では決してない。その基本は、学術誌としての高い品格を守りたい、という一点にある。多数の医家を会員に擁する協会が、多くの活動と共に、他に比して恥ずかしくない、高レベルの立派な学術誌を刊行していることは誇りでもある。そのために生ずるのが著者と編集委員会とのせめぎあいである。時には失礼かもしれない査読意見を申しあげられる場合もあるが、学術誌として守るべきレベルと方針をお示しするのが編集委員会の役割と信じている。活発なご投稿を期待したい。 [高橋 英世]

編 集 委 員 (50音順 *印委員長)

池 山 淳	粥 川 裕 平	杉 藤 徹 志*
高 橋 英 世	松 本 美 富 士	山 本 武 司

明日の臨床

Vol. 20 No. 2

2008年12月25日発行

編 集 明日の臨床編集委員会

発行所 愛知県保険医協会

〒466-8655 名古屋市昭和区妙見町19-2

☎ (052) 832-1345

制 作 (株)東海共同印刷

頒価 1,000円・発行部数 7,000部